

美術館だより

Contents

- 1-2 企画展「藤田嗣治 絵画と写真」より(近代美術館)
- 3 企画展「生誕150年記念 木村武山展」(五浦美術館)
- 4 企画展「富山県水墨美術館コレクション 水墨画を楽しむ7つのとびら
—富岡鉄斎、竹内栖鳳、横山大観から加山又造へ」(近代美術館)
- 5 企画展「関影商事コレクション 斎藤清のパリ そして日本」(五浦美術館)
- 6-7 事業レポート
- 8-9 企業パートナーシップ事業
- 10 インフォメーション

No.133

Feb 12, 2026

茨城県近代美術館
「藤田嗣治 絵画と写真」より



ドラ・カルムス (マダム・ドラ)《猫を肩にのせる藤田嗣治》
1927年 東京藝術大学蔵

1920年代初頭、後に画家・藤田嗣治 (1886-1968) がパリにその名を轟かせることとなる「乳白色の裸婦像」の傍らに、猫が登場します。以降、猫はしばしば人物の近くに脇役として描き込まれ、藤田にとってはサイン代わりでもあったといえます。他方で、「マダム・ドラ」ことドラ・カルムス (1881-1963) が撮影した藤田のポートレートでは、猫は単なる添え物ではなく、強い存在感を放っています。雑誌市場の発展を背景にポートレートやファッション写真で活躍したドラは、ここでは極東からパリにやってきた画家と猫というどこか

ミステリアスな二者を対等に組み合わせています。そして、卓抜したファッション・センスと、様々な色の衣装がモノクロームに置き換えられた時の効果を見極める眼力によって、洋服の質感を巧みに写し出し、ソフトフォーカスの効果をもたらす優美さとともに藤田の洒落者ぶりを伝えていきます。本作は、1928年にパリで出版された画集『Foujita』や、藤田の初の随筆集『巴里の横顔』(1929年)に掲載されるなど、早くから愛猫家としての藤田のイメージを写真によって印象付けてきた1点といえるでしょう。

[近代美術館 首席学芸員 澤渡麻里]

会 期：2026(令和8)年2月10日[火]～4月12日[日]
 開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)
 休 館 日：毎週月曜日
 ※ただし2月23日[月・祝]は開館、2月24日[火]は休館
 入 場 料：一般1,360(1,240)円／満70歳以上680(620)円／
 高校生1,130(980)円／小中生550(420)円
 ※()内は20名以上の団体料金
 ※障害者手帳等をご持参の方及び付き添いの方1名は無料
 ※2月14日[土]は満70歳以上の方は入場無料
 ※春休み期間を除く土曜日は高校生以下は無料
 主 催：茨城県近代美術館
 後 援：水戸市／朝日新聞水戸総局／茨城新聞社／NHK水戸放送局／
 産経新聞社水戸支局／東京新聞つくば支局
 日本経済新聞社水戸支局／毎日新聞水戸支局
 読売新聞水戸支局／LuckyFM茨城放送
 協 力：レオナルド・フジタ財団、メゾン＝アトリエ・フジタ(フランス・エソンヌ県)
 企画協力：キュレーターズ

展覧会の概要

エコール・ド・パリの画家として世界的に知られる藤田嗣治(1886-1968)は、若き日から晩年までカメラを愛用し、膨大な量の写真を撮影しました。本展では、藤田の絵画とともに、制作の際に参考とした写真や、単なる記録に留まらない、藤田の感性や色彩感覚が息づく写真をご紹介します。

藤田といえば、オカっぱ頭、丸眼鏡、口髭、そして猫を思い浮かべる人も多いことでしょう。こうした典型的な“フジタ”像は、「見られたい私」として藤田自身が意識的に打ち出したものでもありました。自画像とポートレート写真による、藤田の巧みなセルフ・ブランディング術に迫ります。

本展は、「写真」を手がかりに藤田の芸術について再考する世界初の展覧会です。ウジェーヌ・アジェ、マン・レイ、土門拳など同時代の写真家の作品もご紹介しながら、藤田の絵画と写真の関係性をひもときます。

みどころ

①自画像とポートレート写真によるセルフ・ブランディング術

面相筆を手にアトリエでポーズをとる藤田と、後ろから顔を覗かせる猫。卓上には墨と硯が置かれ、壁には女性像が掛かっています。ここで描かれているのは藤田が「見られたい私」、すなわち、独自の「乳白色の下地」に黒い線描で描いた裸婦像によってパリで名を上げた、個性

的なファッションの日本人画家の姿です。そして、このような“フジタ”のイメージを強化し再生産したのが、ドラ・カルムス、ボリス・リプニツキ、アンドレ・ケルテスといった気鋭の写真家たちによるポートレート写真でした。写真家の「表現」と藤田の「自己演出」がせめぎ合い、あるいは共鳴しながら生み出された“フジタ”のキャラクター。撮る側と撮られる側の間に潜む緊張と共犯のドラマに、是非想像を巡らせてみてください。

②画家の眼の記憶—藤田の感性が光る珠玉の写真を一挙公開！

メゾン＝アトリエ・フジタ(藤田の最後のアトリエ兼住居、フランス・エソンヌ県)と東京藝術大学に大量に残された藤田の写真は、彼が旅先で、あるいは日々の生活の中で目を引かれたものや、それらをどのように記録したかを伝えるとともに、藤田の対象を選び取るセンスや優れた構図感覚、画家ならではの色彩感覚を明らかにしています。本展では、レンズを通した画家・藤田の眼の記憶と、その眼(まなざし)の有り様に迫ります。

③戦前と戦後、2点の裸婦群像

1913年に渡仏した藤田は、1920年代には女性の肌の質感を独自の技法で捉えた「乳白色の裸婦像」によって大成功を収めました。代表作《舞踏会の前》(1925年)では、滑らかで上品な絵肌と細く柔らかな輪郭線など、絶頂期にあった藤田の妙技を余すところなくご覧いただけます。なお、茨城会場には、戦後に伝統的な油彩技法によって描かれた裸婦群像《優美神》(1946-48年、聖徳大学・聖徳大学短期大学部蔵)も出品されます。戦前の《舞踏会の前》、戦後の《優美神》という、全く性格の異なる裸婦群像の大作を2点併せてご覧いただけるのは、巡回会場の中で当館のみとなります。

[近代美術館 首席学芸員 澤渡麻里]



藤田嗣治《中南米の子どもたち》
メゾン＝アトリエ・フジタ(エソンヌ県)蔵



藤田嗣治《メキシコの通り》
メゾン＝アトリエ・フジタ(エソンヌ県)蔵



藤田嗣治《自画像》1929年
東京国立近代美術館蔵
© Fondation Foujita / ADAGP,
Paris & JASPAR, Tokyo,
2026 E6254



ボリス・リプニツキ
《藤田嗣治》1925年頃
シャーマン・コレクション
(河村泳静氏所蔵/
伊達市教育委員会寄託)蔵



藤田嗣治《荷車》東京藝術大学蔵

藤田嗣治《舞踏会の前》1925年
公益財団法人大原芸術財団 大原美術館蔵
© Fondation Foujita / ADAGP,
Paris & JASPAR, Tokyo,
2026 E6254

会 期：2026(令和8)年2月11日[水・祝]～4月19日[日]

※絵画は前期・後期で全点展示替えをいたします。

前期：2月11日[水・祝]～3月22日[日]

後期：3月24日[火]～4月19日[日]

開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)

休 館 日：毎週月曜日

※ただし2月23日[月・祝]は開館。2月24日[火]は休館

入 場 料：一般360(290)円／満70歳以上180(140)円／

高校生240(170)円／小中生170(110)円

※()内は20名以上の団体料金

※障害者手帳等をご持参の方及び付き添いの方1名は無料

※春休み期間中を除く土曜日は高校生以下は無料

※3月14日[土]は満70歳以上の方は無料

主 催：天心記念五浦美術館 生誕150年記念木村武山展地域連携実行委員会

展覧会の概要

木村武山(1876-1942)は現在の茨城県笠間市出身の日本画家です。東京美術学校時代には岡倉天心の薫陶を受け、日本美術院創立にも副員として参加しました。明治39(1906)年、天心が苦境にあった日本美術院第1部(絵画)の茨城県の五浦移転を執行した際には、横山大観、下村観山、菱田春草の3人の先輩と共に家族を引き連れて五浦に移住しました。以後、武山はその生涯を近代日本画の発展に捧げ、歴史画、花鳥画、仏画など幅広いテーマで作品を残しました。現在、武山の作品は、美術館・博物館のみならず多くが個人によって所蔵されています。本展覧会は、木村武山の生誕150年を記念し、県内外の美術館のほか、個人所蔵家の協力を得て開催します。特に「仏画の武山」と称され、新境地を開いた後半生の仏画作品には、武山の深い信仰心と高い技量が表れており、今もなお見る人に深い感銘を与えています。

本展では、武山にとっての仏画の意義を再考するとともに、武山芸術の集大成ともいえる笠間市の大日堂に安置されている厨子を特別展示として公開します。

武山の魅力を感じることができるといえない機会です。是非ご堪能ください。

みどころ

①新発見の作品、県内美術館初出品の作品を公開

木村武山の作品には、行方が分からなくなっている作品が相当数ありますが、今回はその所在が明らかになった作品も展示します。

②説話・物語、花鳥風月、仏画の3つのテーマで前・後期合わせて約60点を紹介

出品作品を3つのテーマに分けて紹介します。特に仏画においては、右手の自由を失って筆を左手に持ち替えて描いた「左武山」と言われた時代の作品も紹介します。

③武山芸術の集大成、大日堂安置の厨子と大日如来坐像を特別展示

武山は、その生涯において、いくつかの寺院の障壁画を描いていますが、晩年には笠間へ帰郷し、母のために大日堂を建立し、内部の壁画や厨子の仏画制作に心血を注ぎました。そこには、武山が最後に到達した祈りが作品として表されています。今回の展示では、武山が帰依していた大日如来坐像とこれを祀る厨子を会期を通して公開いたします。

[天心記念五浦美術館 学芸主査 村木正英]



《陶淵明》1913年頃 個人蔵



《花鳥十題の内 白菊》
1920年 個人蔵



《花鳥十題の内 雨中の柿》
1920年 個人蔵



《不動明王》
1915-16年頃 個人蔵

会 期：2026(令和8)年4月25日[土]～6月21日[日]
 ※会期中、一部展示替えを行います。
 前期：5月24日[日]まで／後期：5月26日[火]から
 開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)
 休 館 日：毎週月曜日、5月7日[木]
 ※GW中(4月29日[水・祝]～5月6日[水・振]は無休)
 入 場 料：一般1,240(1,130)円／満70歳以上620(560)円／
 高校生980(820)円／小中生550(420)円
 ※()内は20名以上の団体料金
 ※障害者手帳等をご持参の方及び付き添いの方1名は無料
 ※土曜日は高校生以下は無料
 ※4月25日[土]は満70歳以上の方は無料
 主 催：茨城県近代美術館
 特別協力：富山県水墨美術館
 協 賛：常陽銀行
 後 援：水戸市／朝日新聞水戸総局／茨城新聞社／NHK水戸放送局／
 産経新聞社水戸支局／東京新聞つくば支局／
 日本経済新聞社水戸支局／毎日新聞水戸支局／
 読売新聞水戸支局／LuckyFM茨城放送

展覧会の概要

白と黒を基調とする色彩のなかに無限の広がりを見せる水墨画の世界。墨の表現の幅は驚くほど多彩でありながら、その深さや広がりには十分に知られているとはいえません。そこで本展では、富山県水墨美術館が誇るコレクションから、幕末から現代にいたる名だたる画家たちによる約70点を厳選し、水墨表現の奥深い魅力に光を当てます。

みどころ

・7つの「とびら」とおした新しい鑑賞体験

水墨画を身近に感じていただけるよう、鑑賞の手がかりとなる7つの「とびら」をご用意しました。

視覚のみならず五感をはたらかせ想像力の翼を広げる「①五感でイメージーションをひらく」、賛(書)と画の響き合いを楽しむ「②文字と絵のコラボレーション」、空白

や構図の妙を味わう「③余白・切り取りの美学を考える」。さらに、制作のエピソードを深掘りする「④背景を読み解く」、画面の片隅に描かれた小さな場面に注目する「⑤ディテールを探す」、今では忘れられつつある東洋画題をひもとく「⑥あなたは一体だれですか?」、濃淡やにじみによる墨の表情に着目する「⑦筆の痕跡に注目」。

これらの「とびら」を開けることで、水墨画との距離がぐっと近づく——そんな新しい鑑賞体験が生まれることでしょう。

・富岡鉄斎、横山大観から加山又造へと続く巨匠たちの名品、約70点を展覧

最後の文人画家と称される富岡鉄斎(1836-1924)。近代日本画の礎を築いた東西日本画壇の両巨頭・横山大観(1868-1958)と竹内栖鳳(1864-1942)。そして、伝統と革新を融合し、戦後日本画界を牽引した加山又造(1927-2004)。世代を超えて受け継がれてきた水墨表現の変遷と画家たちの創意あふれる試みを、約70点の名品を通してたどります。

・現代作家による「作り手」の視点を楽しむ

現代作家・園家誠二(1960-)は、墨と和紙を用い“具象と抽象の境界”を探る作品を制作しています。本展では、園家が「作り手」のまなざしで当館のコレクションから2点をセレクト。セレクト作品と《月光no.2310》(富山県水墨美術館蔵)を始めとする園家作品、そして本人へのインタビュー内容を紹介するパネルをあわせて展示します。7つの「とびら」に加え、現代の作り手の視点とおして、モノクローム表現を改めて見つめるひとときをお楽しみください。

[茨城県近代美術館 主任学芸員 高田紫帆]



富岡鉄斎《竹窓高臥図》
1919年



横山大観《木立に白鷺》
1904年 ※後期展示



竹内栖鳳《鳥図屏風》1899年頃



小杉放菴《漁翁図》1940年代



平福百穂《獅子図》1915年



全て富山県水墨美術館蔵

会 期：2026(令和8)年4月26日[日]～7月12日[日]

開館時間：午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)

休 館 日：毎週月曜日、5月7日[木]

※GW中(4月29日[水・祝]～5月6日[水・振])は無休

入 場 料：一般820(710)円／満70歳以上410(350)円／

高校生590(470)円／小中生360(240)円

※()内は20名以上の団体料金

※障害者手帳等をご持参の方及び付き添いの方1名は無料

※土曜日は高校生以下は無料

※5月23日[土]は満70歳以上の方は無料

主 催：茨城県天心記念五浦美術館

特別協力協賛：関彰商事株式会社

後 援：朝日新聞水戸総局／茨城新聞社／NHK水戸放送局／

産経新聞社水戸支局／東京新聞つくば支局／

毎日新聞水戸支局／読売新聞水戸支局／

LuckyFM茨城放送／北茨城市／北茨城市教育委員会

展覧会の概要

斎藤清(1907-1997)は独学で木版画を始め、戦後、占領軍関係者など外国人を中心に人気を博しました。1951年の第1回サンパウロ・ビエンナーレでは戦後日本人として初めての国際展受賞を果たします。これを皮切りに海外への招待出品や国内外での個展開催など活躍の場を広げ、日本の版画をリードする存在となりました。

国際的評価を得た1950年代以降、斎藤はアメリカ・フランスをはじめ諸外国を訪れます。数多くの訪問先のなかでも、1959年冬に訪れたパリでは、2か月間の滞在中、寒さもいとわず街へ出て精神的にスケッチを重ねました。画面には、荘厳な大聖堂や華やかなブティックに集う人々の姿が写生ならではの即興的で躍動感ある線で描きとめられ、パリに触発された画家の心の動きが伝わってくるようです。これらの素描はその画業を支えるにとどまらず、版画作品とは異なる魅力を鮮烈に放っています。また、外国人との交流や外遊を経た画業の後半では、外国に取材した作品を発表するとともに国内にも目を向け、京都や鎌倉

といった古都の美を数多くの版画に残しました。

本展では、関彰商事株式会社の貴重なコレクションから斎藤の代表作である木版画を展示します。さらに、これまで展示される機会がなかったパリ・京都・鎌倉を中心とした素描を当館において初公開し、国際的版画家・斎藤清の優れた素描家としての一面をひもときます。

みどころ

①斎藤清の芸術を一望する

1950年代から晩年までの、版画家としてもっとも成熟した時期の木版画と貴重な素描を展示します。木版画家・斎藤清というイメージを超えて、世界を旅し、日本の美を見つめ直したひとりの芸術家の全貌に迫る展覧会です。

②「夢のパリ」を歩いた画家の眼差しに迫る

パリの素描には、斎藤が現地で味わった新鮮な感動が刻まれています。パリは芸術を志す多くの日本人にとって憧れの地ですが、斎藤ならばそんな場所でも自分を見失うことはないだろうと送り出されての旅でした。その期待に応えるように斎藤は数日にわたりノートルダム大聖堂をスケッチし、あえて正面ではなく裏側から見た姿を版画にするなど、オリジナルの視点を発揮して制作しました。斎藤が「夢のパリ」をどのように見つめ、切り取ったのか、ぜひ会場でご覧ください。

③斎藤清が見つめた日本の美を味わう

斎藤は「モンドリアンのシンプルな絵を見たとき、障子を感じて、京都に行ってみようと思った」と語っています。京都・鎌倉に取材した作品には、海外を知ったからこそ見えた日本の美があらわれています。さらに、幼き日に離れ、晩年の住まいとした故郷・会津を描いた作品も紹介します。斎藤が新たな眼差しで見つめた日本の情景をご堪能ください。

[天心記念五浦美術館 学芸員 長谷川翠]



《パリ 1959.11.24》
1959年 素描



《カルダン パリ 1959.11.24》
1959年 素描



《ノートルダム パリ 1959.12.15》
1959年 素描



《凝視(花)》
1950年 木版



《石庭 京都》
1950～70年代 素描



《ねこ》
1973年 木版

茨城県近代美術館

高校生特派員プロジェクト 「まなざしを写すー写真と映像の学校ー」

今年度、当館では企画展「藤田嗣治 絵画と写真」(2026年2月10日(火)～4月12日(日)開催)に関連して、高校生特派員プロジェクト「まなざしを写すー写真と映像の学校ー」を通年で実施しました。本プロジェクトでは、写真を使った独自の表現技法で知られる、映像作家の横田将士氏を講師とし、全5回の写真のワークショップを行いました。高校生たちは、写真の歴史や表現技法について学びながら様々な写真の表現にチャレンジしたり、宿題として、自宅や学校で、講師から与えられたテーマで、身近にあるものや風景、自分自身などをスマートフォンで撮影したりしました。それらの写真は、講師が編集し、映像作品として仕上げました。以下に、各ワークショップの様子をご紹介します。

第1回 サイアノタイプ～日光を使った古典的な写真技法 [7月21日(月・祝)]

写真の歴史について学んだ後、紫外線が当たった部分が青く発色する性質を利用して、カメラを使わずに印画紙に像を焼き付ける初期の写真技術「サイアノタイプ」を体験しました。高校生たちは、館内や屋外から素材を集め、印画紙の上にモチーフを置き、光と時間によってさまざまな形が映し出される仕組みを使って作品を制作しました。



サイアノタイプの作品と制作の様子

第2回 長時間露光 [8月17日(日)]

シャッターを長く開けて光を取り込むことで、動く被写体の流れるような動きや光の軌道を写真に写し出す撮影技法を体験しました。高校生たちはグループに



アニメーション制作の様子

なり、スマートフォンのライトを動かしながら、講堂の奥行と階段状の構造を活かした演出プランを考え、アニメーション制作に挑戦しました。

第3回 それぞれの視点とセルフポートレート [9月21日(日)]

写真撮影における視点に着目して、4つの異なる視点で撮影を行いました。①参加者全員でひとつの彫刻を囲み同時に撮影②ひとつの彫刻をそれぞれが自由に撮影③個々に美術館内外をリサーチし、自由な視点で撮影④自分自身を美術館内外のガラスや鏡などに映り込ませたセルフポートレートを撮影。これらの撮影を通して、写真表現の自由さ、視点の多様さを学びました。



彫刻撮影の様子

第4～5回 フォトコラージュを使ったコマ撮り映像 [10月19日(日)、12月21日(日)]

高校生たちが撮影した日常の写真や幼少期の写真等を使ってフォトコラージュを制作しました。また、制作したフォトコラージュの素材を少しずつ動かしながら1コマずつ撮影することで、アニメーション効果を加えるコマ撮り動画の制作にも挑戦しました。



フォトコラージュのコマ撮り風景とその作品

本プロジェクトの紹介パネルと制作物、講師の映像作品等は、藤田展開催期間に当館1階アートフォーラムコーナーで展示しています。展示会の鑑賞と併せてぜひ高校生たちの写真と映像の作品もお楽しみください。

[近代美術館 首席学芸主事 郡山真澄]

「グルメ展」で広がる笑顔と地域の魅力

この夏、当館で開催した企画展「グルメ展—食、自然、豊かなアート—」(7月26日～8月31日)では、日本の多様な食文化とそれを支える自然、そして人と人とのつながりをテーマとして食にまつわる作品を日本画、油彩画、水彩画、浮世



「グルメ展」チラシ (部分)

絵など幅広いジャンルから紹介しました。

会期中が夏休み期間ということで、ファミリーで会話を楽しみながら鑑賞できる特別企画として取り組んだのが、毎日を「スマイルトーク・ディ」とした試みです。作品の傍には、展覧会担当と副担当が展示作品についてアレコレささやく「ヒロシ&マーシーのささやき」キャプションを設置。これが鑑賞の糸口となり、家族や友人同士が自然と言葉を交わしながら作品を楽しむ様子が見られました。会話のある展示室は、これまでの「静かな五浦美術館」とは一味違い、開かれた場としての新たな可能性を感じさせてくれました。

また地域連携の取組として、出品作品の小田野尚之《クリームソーダ》(2004) 個人蔵 にちなんでデザインした「得得くり～むそ～だ・シール」(兼割引券)を美術館近隣の民宿、飲食店、県内の「農林水産物取扱指定店」及び都内のアンテナショップ「IBARAKI SENSE SHOP」などで配布しました。このシールによる割引サービスなどを通じて、美術館と地域のつながりが実感できる企画となりました。

食という身近なテーマを通して、美術に親しみ、地域の魅力を再発見する展覧会となりました。

[天心記念五浦美術館 学芸主査 武石洋]



ヒロシ&マーシーのささやき

美術講演会

「絵が語る道德のかたち—儒教の美術が創ったアジアの価値観」

11月1日(土)「絵が語る道德のかたち—儒教の美術が創ったアジアの価値観」という演題で、筑波大学芸術系准教授、水野裕史氏をお迎えして美術講演会を開催しました。

水野氏の数多い著作の中でも、近年出版された『儒教思想と絵画—東アジアの勸戒画』と『帝艦図と帝艦図説—日本における勸戒画の受容』において、美術が人々の道德や価値観の形成にどのように関わってきたのかを明らかにされています。今回の講演会では、その論考をもとに、具体的な勸戒画を紹介しながら分かりやすくご講話いただきました。

浮世絵師の楊洲周延が手掛けた《二十四孝見立画合》の10番目の剡子が描かれた勸戒画が紹介されました。この絵には、年老いた両親の眼病に効くとされる鹿の乳を求め、鹿の毛皮を身に纏い群れに紛れたところを鹿と間違えられて射られそうになった場面が描かれています。この親孝行の話に参加者は熱心に耳を傾けていました。親孝行や礼儀、「どう生きるべきか」を真剣に考えた人々の思いや東アジアで共有されてきた道德の形が勸戒画にどのように表されているのか、水野氏のお話から読み解く楽しさを参加者は味わうことができました。



講演会終了後の質疑応答では、儒教美術における孔子の表現や道德を教える美術作品を見ていた人々の範囲、儒教美術の発生期間とその

影響についての質問がありました。孔子の描かれ方や勸戒画を寺子屋で子供たちが見ていたこと、仏教における位牌は儒教の考え方があることや孝子発掘の流れが地方にまで波及していたことなど教えていただきました。「美術」と「道德」という組み合わせの面白さにひかれたことや過去の中国において絵画は美的なものというより礼節や生き方を伝えるものとしての側面が強かったことなど、興味深く聴講したとの参加者の声が聞かれました。

今回の講演により、美術作品が表している意味を追求し、美術史への興味関心を高めるきっかけになっていただけましたら幸いです。

[茨城県つくば美術館 学芸主査 小林晴美]

※勸戒画:「善を勧め悪を戒める」意味を持って制作されたもの
 ※帝艦図説:明朝第十四代皇帝である万歴帝のために作られた帝王学の教科書

茨城県近代美術館企業パートナーシップ事業

先号に引き続き、今回はゴールドパートナー企業の社会貢献・地域貢献の取り組みや文化芸術に関連した取り組みの事例をご紹介します。

茨城県近代美術館友の会

茨城県近代美術館友の会は、美術を愛好する人たちが集い、美術館の活動を支援しながら、会員相互の教養を高め、親睦を図ることを目的として、幅広い活動をしています。

茨城県天心記念五浦美術館と共通の友の会です。



2024年度海外旅行
(ポルトガル)

友の会会員には多くの特典があります。

- 近代美術館と天心記念五浦美術館のすべての企画展・常設展が無料です。
- 海外や国内の美術鑑賞旅行に参加できます。
- 美術講座や学芸員によるギャラリートーク等に参加できます。
- 会報誌「游美」や友の会行事案内、美術館資料が郵送されます。
- ショップでの図録購入やレストランでの食事の割引があります。



友の会HP



会報誌「游美」

茨城県近代美術館の支援を行っています。

企業パートナーやクラウドファンディング、行事、イベント等への支援を行っています。

友の会の活動や入会申込みの詳細につきましては、ホームページをご覧ください。
(<https://fmoma.com>)

関東鉄道株式会社

平素より、当社グループをご利用いただきまして、誠にありがとうございます。

当社は、安全・安心・快適な輸送サービスの提供に努め、地域社会の発展に貢献し、お客様から信頼され愛される企業を目指しております。



電気バス・ハイブリッドバスを積極的に導入

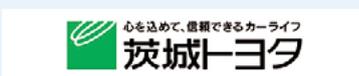
当社では、二酸化炭素を排出しない電気バス11両と、電気とディーゼルエンジンを併用するハイブリッドバス29両を導入し、炭素排出量の削減に貢献しています。また、電気バスは災害時に電源供給車として活用することが可能です。

公共交通を通じた地域貢献への取り組み

当社では様々な地域貢献活動を通して、地域の皆様の公共交通に対するご理解を深める取り組みをしています。鉄道事業では常総線や竜ヶ崎線沿線の小学校で行っている「鉄道教室」を通して、鉄道の安全利用や運行に携わる人々の役割を子どもたちに伝えております。バス事業では「バスの運転士お仕事体験イベント」などを通して、車両点検や点呼業務を体験いただき、バス事業における安全性の大切さをお伝えしております。



パートナー企業の皆様



イオンモール株式会社

当社は、「Life Design Developer」の経営理念のもと、持続的な社会の実現に向けて、地域・社会に貢献・活性化する取り組みを『ハートフル・サステナブル』として定め、各モールにて様々な活動に取り組んでいます。



「イオンモールウォーキング」で地域のみなさまの健康をサポート

イオンモールでは、地域のお客さまの健康拠点として、また、豊かで充実した毎日を提供するショッピングモールであり続けるために、ヘルス&ウエルネスの推進に取り組んでいます。

一つの例として、昨今の健康志向の高まりや、猛暑等の気象条件による屋外活動の制限を受け、館内でウォーキングを行う『イオンモールウォーキング』に取り組んでいます。

茨城県内をはじめ全国のイオンモールで、館内にウォーキングコースを設置し、季節や天候、時間に左右されずに自由に運動をお楽しみいただけます。

これからも、イオンモールウォーキングを通して、地域のみなさまの健康をサポートしていけたらと考えています。



茨城交通株式会社

当社は、県央、県北地域を中心に地域に密着した交通手段として、乗合・貸切バス事業を展開しております。

安全な運行、安心していただけるサービス、安定した経営を会社の重大な課題に掲げ、地域の皆様の「足」としての責任を果たして参ります。



路線バス全車でクレジットカードタッチ決済・二次元コード決済のサービス導入

茨城交通では、路線バス全車両(約400台)において、クレジットカードのタッチ決済、二次元コード決済のサービスを導入しております。

現金やICカード「いばっぴ」に加え、普段の買い物でもご利用されているタッチ決済や二次元コード決済が路線バス運賃でもご利用いただけますので、日常的にバスをご利用いただいているだけでなく、観光のお客さまなど普段茨城交通の路線バスをご利用でない方でも便利にご利用いただけます。



● 教育普及アートバス事業～子どもたちの豊かな感性と創造性を育む～

令和8年度は近代美術館及び五浦美術館を会場として、22市町村の小学校を対象に25台のアートバスを予定しています。(水戸市、つくば市、古河市は2台、他の市町村は1台)

1	水戸市(2)	7	常陸太田市	13	牛久市	19	結城市
2	笠間市	8	鹿嶋市	14	つくば市(2)	20	常総市
3	ひたちなか市	9	神栖市	15	稲敷市	21	筑西市
4	那珂市	10	土浦市	16	つくばみらい市	22	坂東市
5	小美玉市	11	石岡市	17	阿見町	※教育普及アートバス事業は、パートナー企業のご支援により運営しています。	
6	日立市	12	取手市	18	古河市(2)		

茨城県近代美術館

企画展・関連イベント

藤田嗣治 絵画と写真

2026年2月10日【火】～4月12日【日】

講演会「藤田嗣治の視線【まなざし】—絵画と写真のはざま—」

講師：佐藤幸宏氏（札幌芸術の森美術館館長、本展監修者）

日時：2月22日【日】 午後1時30分～3時

会場：地階講堂（申込不要、参加無料）

・学芸員による鑑賞講座「描く藤田／撮る藤田／撮られる藤田」

講師：澤渡麻里（本展担当学芸員）

日時：3月22日【日】 午後2時～3時30分

会場：地階講堂（申込不要、参加無料）

・学芸員によるギャラリートーク

講師：澤渡麻里（本展担当学芸員）

日時：4月4日【土】 午後2時～3時

会場：企画展示室（申込不要、要企画展チケット）

・写真ワークショップ「チェキ™で撮るポートレート」

講師：松本美枝子氏（写真家、美術家）

日時：3月7日【土】 午前10時～12時／午後2時～4時

会場：地階講座室

定員：各回20名程度（中学生以上）

（要事前申込【Webのみ】、要企画展チケット及び参加費500円）

協力：富士フィルムイメーションシステムズ（株）

・ミュージアムコンサート「狂乱の時代（レ・ガゼ・フォル）—1920年代/日本の音楽」

出演：高辻祐子（ヴァイオリン）、保戸塚優奈（ピアノ）

日時：2月26日【木】 午後2時30分～※45分程度

会場：エントランスホール

定員：150名（要事前申込、参加無料、要企画展チケット）

富山県水墨美術館コレクション

水墨画を楽しむつとびら

—富岡鉄斎、竹内栖鳳、横山大観から加山又造へ

2026年4月25日【土】～6月21日【日】

・フロアトーク

「みるひと×つくるひと—水墨表現の過去・現在・未来—」

講師：島尾新氏（美術史家）、園家誠二氏（本展出品作家）

日時：5月16日【土】 午後2時～3時30分

会場：地階講堂

定員：250名（申込不要、参加無料、要企画展チケット）

・令和8年度美術館アカデミー

「演詩文で読み解く水墨画の世界」

講師：李海紅氏（りまんほん 茨城大学教育学野講師）

日時：6月7日【日】 午後2時～3時30分

会場：地階講堂

定員：250名（申込不要、参加無料）

・学芸員によるギャラリートーク

講師：高田紫帆（本展担当学芸員）

日時：4月26日【日】 午後2時～3時

会場：2階企画展示室

定員：なし（申込不要、要企画展チケット）

・学芸員による鑑賞講座

講師：高田紫帆（本展担当学芸員）

日時：5月30日【土】 午後2時～3時30分

会場：地階講堂

定員：250名（申込不要、参加無料）

所蔵作品展 第1展示室

日本の近代美術と茨城の作家たち 冬

12月24日【水】～2月15日【日】

※最新の情報は各館ホームページ等でご確認ください。



茨城県近代美術館

〒310-0851
水戸市千波町東久保666-1
TEL 029-243-5111
FAX 029-243-9992

HP <https://www.modernart.museum.ibk.ed.jp/>



茨城県つくば美術館

〒305-0031
つくば市吾妻2-8
TEL 029-856-3711
FAX 029-856-3358

HP <https://www.tsukuba.museum.ibk.ed.jp/>



茨城県天心記念五浦美術館

〒319-1703
北茨城市大津町橋2083
TEL 0293-46-5311
FAX 0293-46-5711

HP <https://www.tenshin.museum.ibk.ed.jp/>

県立美術館3館（近代美術館・天心記念五浦美術館・陶芸美術館）共通の年間パスポートを発売中！詳しくはお問い合わせください。

美術館では以下の方は無料で観覧をご案内いただけます。

○土曜日來館の高校生以下の方（ただし、土曜日が夏季、冬季及び学年末・学年始における学校の休業日に当たるときは除きます） ○教育活動としての茨城県内の小・中・高・義務・中等教育・特別支援学校（県外含む）の児童生徒及び引率者並びに教育活動としての茨城県内の幼稚園の幼児の引率者 ○国際交流事業として国外から本県に留学している方 ○児童福祉施設、身体障害者更生支援施設、知的障害者支援施設、老人福祉施設に入所している方及び付き添いの方（1人につき付き添い1人まで） ○身体障害者手帳、療育手帳の交付を受けている方及び精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方並びに付き添いの方（1人につき付き添い1人まで） ○指定難病特定医療費受給者証の交付を受けている方並びに付き添いの方（1人につき付き添い1人まで） ○生活保護法により扶助を受けている方

友の会ニュース 友の会では皆様のご入会をお待ちしております。

<お知らせ>

①「令和7年度茨城県芸術祭美術展覧会」が、11月15日（土）～12月14日（日）の期間に茨城県近代美術館及びザ・ヒロサワ・シティ会館で開催されました。多くの会員の皆様が来館し、作品を鑑賞いたしました。友の会会員の皆様は「友の会会員証」の提示により1回のみ無料でご覧いただけます。（2回目以降は、団体料金となります。）なお、会員証の提示がない場合は一般料金となりますのでご了承ください。

②友の会では、新規入会の申込みを随時受け付けております。茨城県近代美術館でお申し込みの場合は、入会申込書を提出し、入会金を現金でお支払いください。直ちに仮会員証を発行いたしますので、会員としての特典をすぐにご利用いただけます。また、茨城県近代美術館友の会ホームページからも申し込むことができます。

詳しいお問い合わせ

・年会費、ご入会等に関する詳しいお問い合わせは県近代美術館友の会事務局（☎029-243-5111）までお願いいたします。

・友の会ホームページでも年会費、ご入会等に関して確認できます。

<https://fmoma.com>

